



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第12回例会(9月27日)
平成25年10月4日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週全曜日12時30分～

会 長 平井 滋
幹 事 平野 住則
会 報 金子 真也
クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary, Change Lives. "ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を"…… Ron D. Burton



会員卓話

「人生こぼれ話 パート2」

(株)東流社 顧問
熊谷 昭三 君

前は岩手の民間放送発展史みたいな話をしました。今日は卸売団地の建設と、その関わりについて私の目から、或いは私の見てきた角度から話してみたいと思います。

そもそも卸売団地の建設をしようという気運になったのは昭和37年(1962)11月東大の林周二助教授の「流通革命」という本の出版がきっかけです。あれから50年!当時流通業にいた我々にあれほどの衝撃的ショックを与えた林周二さんの名前が、今ネット検索に出てこない事に改めて驚きました。

我々を含めた問屋たちは50年前のその時代に訪れた高度成長に適応し、問屋が存在価値を増し、生き残るためには『近代化』と『大型化』が必要だと思ったのですが、そんな大変なことを従来通りのそれまでの立地での実現はとて無理だろうと考え店舗等集団化事業(いわゆる商業団地・工業団地)立ち上げが必要という方向に辿り着いた。というわけでした。しかし当時の会議所などに働きかけてもちっとも動いてくれず、火もつかないどころかボヤにもならない。一方隣の宮城では昭和40年仙台に大規模団地の建設が着々と進んでいて地域間格差が拡大してしまう…これでは岩手は駄目だなど、とても苛立っていたんですね。

そんな昭和43年の1月下旬か2月上旬でした、私が満40歳にもなるし近々初の海外旅行

もあって初めて人間ドッグに入ったときの事でした。近くの部屋に小川秀五郎さんも入っていて、もう副知事を終え経済同友会の代表幹事でしたが、暇だからおいでと言われ、そこで卸売団地の話をし、「こんな大事なときに会議所なんて糞の役にも立たない。例えば火は点かなくても煙ぐらい立ってもいいのに!」と散々悪態をついた。「ホー、卸売団地ってそんなに大事なものですか?」とだけおっしゃっておられたが…。

それからひと月経つや経たずに、県が動いてくれ中村直副知事の指示で当時企画部長の工藤巖さんと、のちに岩手県交通の社長になった企画調整課長の松尾景康さんが出席して、北銀の3階大ホールで勉強会を兼ねた説明会が開催されました。この催しをきっかけに商工会議所の中にも急に変化が起き、卸売団地建設準備委員会作りの動きが出来てきて、突然の豹変に驚いたのですが、この時小川秀五郎さんが動いてくれたことは間違いないことだったようです。

それから間もなく会議所から案内があって行ってみたら繊維関係で卸売団地のことを勉強している人達がいる、その中にすごいズウズウ弁ながら妙に弁の立つ爺さんの存在が印象に残ったのですが…。この人こそ「盛岡卸センター」初代理事長として、あの43万坪にも及ぶ岩手流通センターを中心となって作り上げた大黒柱「清水善五郎」さんでした。

清水善五郎さんという人は、私の人生で最も影響力のあった3人の内の一人だと思える人です。実はなんと千葉隆司先生のお爺様であり、最近長野隆行先生のお爺様であられることも判りました。世の中不思議なご縁で繋がっているものだと思います。優秀な血筋はきちんと遺伝するものだと、お二人の実証モデルを見た思いでした。

ある日、会議所に招集されたら、卸団地の方向性・構成を話し合う会でした。繊維関係の人間が話し合いをリードして「団地を造るとしても県費を投入するのだから地元で有利なように、他県業者を入れない団地にしよう！」の意見が出され「そうだ、そうだ！」「それがいい！」出席者の大勢がその意見に賛成で、団地の性格、方向性が決まりかけたのです。「…とんでもない話だ！」隅っこで成り行きをみていた慎重で臆病な40歳の若蔵は遂に切れて思わず発言していました。「地元だけの業者が集まって出来る卸団地なんて小売業の方々にとって一体何の新しい魅力があるのですか？先進地の近代経営を進めている卸業に入って貰い、団地の魅力を高め、我々もその人たちと競争し、切磋琢磨して進歩向上してこそ得意先に指示される魅力ある新しい業者になれるし、そういう性格を備えた団地ならば地域間競争にも耐えられる事になるのではないですか？」てな調子のお話を言っちゃったんですね。つい我慢しきれず、われを忘れて！満場シーン…として気まずい時間が続きました。その雰囲気…その日はそのまま解散になりました。

この発言で「正論を吐く若者がいる！」と清水さんに見つかってしまい、爾来十数年の忘れられない深いお付き合いが始まりました。次の会合に出たところ卸団地建設準備委員会の委員長に会頭の池野権司氏、副委員長清水善五郎氏、同じく副委員長熊谷昭三の名が出ていました。いくらなんでも藪から棒の話でした。やがて池野権司さんが逃げたのか、大人たちが調整したのか正式に卸団地建設準備委員会が出来ました。委員長清水善五郎（岩手繊維専務）、副委員長菊池美文（三洋機械社長）、副委員長熊

谷昭三（熊長本店社長）と選任されてしまいました。えらいことになったと思い、誰かもっと人生経験の豊富な人を、と訴えましたが、お前が言いだしっぺなんだからと、池野権司さんにも言われ悩んでおりました。

そんな折、銀座で2軒3軒と飲み歩き、日動画廊の前を通りかかった時に、ふと容貌魁偉な手相見と目が合い手招かれるまま前に立ちました。筮竹をジャラジャラとして言いました。「牛頭だか馬頭だか何かよく判らないが、種類の違った沢山の数の集団を、囲いのようなものに入れて安全に守って、遠くへ連れて行く運命にある。これから逃れることはできないよ！」と言われ、あとは何を聞いても答えてくれませんでした。その時の悩みをズバリと言われ、引き受けるよりしょうがないなど、これで諦めました。その後銀座で飲む機会がある時はずっと日動画廊の前を気にしていたのですが、遂にあの占い師に逢うことはありませんでした。

こうして選ばれた建設準備委員会の執行部3人の取り合わせは、天の配材と申しますかコンビネーションが抜群で、勿論、清水善五郎さんが群を抜いた智能と記憶力、県会議員2期体験の弁舌と押しの強さ、数多くの経験と豊富な人脈を持ち、並外れたリーダーシップを発揮された明治生まれ。そして菊池美文さんは宮城県人で盛岡で一旗揚げた機械屋さん、盛岡人と違って、鋭い舌鋒で遠慮会釈なく攻め込む切り込み隊長タイプの大正生まれ。私の役割は未だ沢山の夢や希望を持っている年頃、10年先、20年先を考えて実現性のある未来図を提示しながら実務を勉強する昭和生まれ。こんな感じでした。でも何故か会計検査院対応は私に振られました。

清水善五郎さんはその頃岩手繊維の専務とテレビ岩手の会長をやっておられ、花泉のご自宅から盛岡へ、毎週金帰月来の生活で盛岡の宿は大手先の我妻館でした。それから以後菊池美文さんと私達は本当の父親からのような凄いききを数年以上に亘って受けることになるのです。夢にも予想しないことでした。なにせ至る所に情報網を持っている清水さん。何かと新しい情報が入ると朝7時に電話が掛かって来るの

です。私達の予定も何も関係ない最優先の緊急招集です。8時集合なら我妻館、9時集合なら岩手繊維（今の設計協会が入っている上の橋際のビル）に集まり、清水さんの話を聞き3人で情報を共有し対応を協議し解散します。

当時の私は週に4日位は夜の付き合い、2日位は午前様、未だ赤い目をして大手先や紺屋町の通りを駆け抜けたこと数知れず、なのですが、なにせ清水さんの卸団地に向き合う覚悟が違う！強い使命感を持っている！基本に公共への奉仕の精神が貫かれているんです！清水さんの指示指令を拒みきれないでいるうちに、やがて昼の集まりも増え、次に夜の会合も増えてくる。次々に与えられる課題はだんだん難しくなってくるのです。

ある時こんなこともありました。岩手放送の番組審議会の席に電話があり「緊急事態が発生したので直ぐ事務局に来い！」何が起きたらと慌ててIBCの社屋を出たところに再び電話！「実は、さっき専務と衝突して喧嘩になった。専務が、こんなところに努めていられない！辞めてやる。と啖呵を切って帰った！いい機会なので辞めさせたい！この件はあんたにマガセツカラ、後始末してケサイ！ワダシは気分が悪いので家さケツカラ!!」ところがその専務は数か月ほど前に、県に頼んで来てもらったばかりの、ある部の次長をやった人物でした。鼻っばしの強そうな男で、理事長との相性を心配していたのですが早速やっちゃって、修復不能の状況です。自分で県に頼みに行き貫ってきたのに、わがままな…と思いつつ、40歳の若蔵に解決処理できる問題かとため息をつきました。ともあれ全身全霊、誠心誠意対応しましたが本当に苦労しました。今考えてみるとこんな無茶をいつけて、力量を試したのかもしれませんが。

こうして鍛えられましたが、世間のいわゆる無責任な清水悪五郎などと称される清水評とは全く異なる清水像に長時間接し、本当に真剣な指導を受けました。外部の多少の非難・中傷があっても我々3人の絆は微動だにせぬ一枚岩になっており、この時期人を育てる極意を教えてくださいましたと心から感謝致しております。

その当時、県信連ビルに事務所を持っていたのですが3人の執行部会は北銀本店の日本庭園に面した立派な応接室も何十回と使わせて貰って、中村千代吉さんには特別にお世話になりました。北銀の肴町支店の会議室、時には平金さんの会議室もお借りして次から次と押し寄せる難問や急場を凌ぎながら、時には“岩手の為だ”を盾にかなりの横車も押しは猛威を振るい、3人揃って押しかけては「怖い人達が来た。」と恐れられ、ひたすら前進を続けました。あの頃は電話が来ても集まりようのない出張中とか土・日で清水さんが花泉の奥様の許に帰る時が正直ホッとする時間に感ずるような、そんな習慣が何年か続きました。

この壮絶な清水さんの奮闘記が卸センターの『15年記念誌』にも『20年記念誌』にも載っていないとか、詳しく書かれていないのです。理由は『15年記念誌』の時は私が出張中で座談会に参加できず（3、4回発言したように記録されているが、実際には参加していない。）出席者、編集者の不勉強で表現されていません。『25年記念誌』は私が25周年の記念事業を自分の手で終えた後、後継者を決めずに辞めてしまったという事で、多分非難轟々だったのでしょう。『25年記念誌』からは私は消されてしまい、一言半句私の発言は載っていないので、清水さんの真の功績が活字化される機会が無くなってしまったのです。

最近、私が現職時代音頭を取って作った清水さんの胸像（卸センターの玄関に飾ってある）の裏面に書いた碑文内容を卸団地ニュースで紹介しておりましたが、現役の理事長在任中『清水善五郎氏思い出の文集』を作らなかったのは私の大きな落ち度かもしれないと反省しているところです。今日は積年の思いを皆様聞いて頂いた次第です。

実はまだまだ面白い話があります。例えば土地価格のカラクリ、地域暖房の失敗の裏表、流通センターのグランドデザイン、地権者への対応、ほとんどの人が知らないだろう第三セクター解散話等々、リクエストがあればお話をさせていただきます。

仙台支部会合(盛岡開催)日程確定のお知らせ

過日、「ホテル大観」で開催する仙台支部第3回目の会合開催の連絡をさせていただきましたが、日程が確定しましたので、改めてご連絡します。なお、詳細なご案内は後日させていただきます。よろしくお願ひします。

〈仙台支部参加者：6名〉

- 前 東北電力 椎井一意、涌沢光春
- 前 ユアテック 木村敬一
- 前 清水建設 風間忠男
- 前 鹿島建設 後藤道也
- 前 NHK 小松敬一

【開催日程】11月1日(金) 18:30~

【場 所】ホテル大観

●ご参加希望の方は事務局までご連絡願ひます。

例 会 報 告

第12回例会
平成25年9月27日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘

- ・司 会 平井 滋会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・ビジター 新沼義雄さん(大船渡R.C.)
- ・会長報告 平井 滋会長
- ・幹事報告 平野佳則幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡南R.C.=10月22日(火)は、職

場訪問例会のため、胆沢ダム見学。

【ニコニコBOX】

- ◆長野隆行君…熊谷昭三会員、卓話まことにありがとうございました。お話に出てきた清水善五郎の遠縁の一人として、大変うれしく思いました。最近本棚を整理していて、たまたま手にした清水善五郎追悼の書『隼(ハヤブサ)の軌跡』を見、熊谷会員が「オヤジさんとの出会い」と題して追悼文を寄せておられたこと、また家内の祖父である久保義雄の写真を見つれたり、なつかしい思い出に浸ることが出来ました。熊谷昭三会

員に改めて感謝申し上げます。

- ◆吉田育弘君…昨日、初曾孫、男の子が誕生しました。名は用意していたようで、想太(そなた)と命名されました。
- ◆山岸晃浩君…2年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。ロータリークラブの皆様に温かく迎えていただき楽しい盛岡ライフを過ごすことができました。本当にありがとうございました。
- メークアップ
道後R.C.=菊池君。盛岡西R.C.=嘉本・田中君。盛岡東R.C.=阿部(勇)・金子/勝部・熊谷(祐)君。

出席報告

会員数 /69名

出席数 /44名

出席率 /66.67%

前々回修正出席率 /75.39%

プログラムの
お知らせ

・10月 4日(金) ゲスト卓話 北川貞之 様 (盛岡地方気象台台長)

「地球温暖化の予測について」

11日(金) 第2回クラブアッセンブリー

18日(金) ゲスト卓話 高橋嘉雄 様 (盛岡農業高等学校校長)

「盛岡農業高校の現状と課題」

24日(木) 秋の懇親会 (25日例会変更)

●本号編集担当 / 金子 真也

●次号編集担当 / 嘉本 孝志